

みなさん、こんにちは。

先週末は雲ひとつない青空、絶好の運動会・体育大会日和になりました。運動場に子どもたちの歓声が響き渡っていました。秋晴れのいい天気が続いています。

1.『硯町遺跡』 奈良時代後半の出土遺物

7月より発掘調査をしていた明石市硯町3丁目のマンション建設予定地から、奈良時代を中心とした須恵器、土師器、瓦などが多量に出土しました。当時、官衙(役所)などで使われていた円面硯(えんめんけん)が含まれており、調査区北1kmの明石郡衙と考えられる吉田南遺跡(神戸市西区森友)と関連した遺跡といえます。また、釣鐘形の飯蛸壺が200個以上出土しており、素焼きで未使用のものもあることから、近くの生産地から運び込まれてきたようです。公的な機関が管理し、近隣の漁村に配っていたとも考えられます。



調査区域



発掘の様子



出土遺物

古代の地形復元図によると、調査地点は明石川の河口部にあたり、『播磨国風土記』に「林潮」(はやしのみなど)と記された港だった可能性が高いと考えられます。古代の器、硯、蛸壺、瓦など、人々の生活に結びついたものはどこからやってきて、どこへどのように運んでいったのか。発掘調査から古代の人やものの流れが少しずつ解明されていきます。

発掘調査は9月末で終了するため、現地説明会はありませんが、今回の出土遺物や遺構の写真は11月18日からの「発掘された明石の歴史展」で公開する予定です。

2.ワークショップ「布ぞうり作り」 50年前の浴衣も変身

9月23日(土)、今回で3回目となる「布ぞうり作り」のワークショップを開きました。参加者は15名、昔に買ったスカート生地、長年使っていたこたつのカバー、色とりどりの古布や使わなくなったシーツを持ち寄り、ボランティアさんの指導のもと、自分の足に合ったぞうりやお孫さんのための小さなぞうりを編み上げていきました。



ボランティアさん教えてー



午後からはスイスイ!



履き心地も満足!

「前々からこの布ぞうりを作ってみたかったんです。なかなか覚えられないけれど、楽しいです」と20年前の洋服の生地を持ってきた方。「50年前、主人の着ていた浴衣がよみがえりました。本当にうれしいです」と、できあがったぞうりを手に話される方。思い出のつまったいろいろな布が、遠い日の記憶を呼び覚ましてくれるようです。

「布ぞうり作り」は大変好評のため、11月、12月にも実施できるように調整中です。